

完成した武道場「漱玉館」＝可児市大森奥洞



可児に武道場「漱玉館」

公益財団法人伊藤青少年育成奨学会(田代久美子理事長)は、可児市大森奥洞に武道場「漱玉館」を建設した。公式戦に対応する剣道競技場(11畳四方)2面を設け、一般に貸し出してスポーツ振興や伝統文化継承に役立てる。18日には竣工式を行い、完成を祝った。同奨学会の創設20周年を記念し、バローホールディングス(HD)人材開発センター「嫩葉舎」隣接地に建設を進めてきた。バローHDから賃借した5200平方分の敷地に、約770

伊藤青少年育成奨学会 剣道競技場2面完成

平方分の鉄骨平屋の建物を建設。建設費は約3億円。床材に厚さ4・5センチの秋田杉を使った本格的な競技場。高さ約90センチのかめ10個を埋め込み、足を踏み込んだ時の音に共鳴する。更衣室やシャワー室も備えた。看板は前南禅寺派管長の中村文峰氏の字を、高山市の彫刻家元田木山氏が彫った。正面の神棚には武道の神様を祭っている。瓦屋根の外観をはじめ、周辺を石垣や日本庭園で飾り、滝を望む景色とあいまって荘厳な雰囲気醸成している。

式では神事に続き、運営に協力する高石和摩県剣道連盟常任理事らによる演武が行われた。施設は剣道やなぎなたといった日本武道の団体などに貸し出し、嫩葉舎の宿泊施設を利用した合宿も可能。完成を記念して披露された演武

＝同



能。貸し出しは財団ホームページを通して行う。田代正美バローHD会長兼社長は「青少年育成にかけた創業者(故伊藤喜美氏)の思いを継承する施設」、田代理事長は「人間を育て磨く願いを込めて名付けた。武道に日本の流儀を見てほしい」と話した。(箕浦由美子)